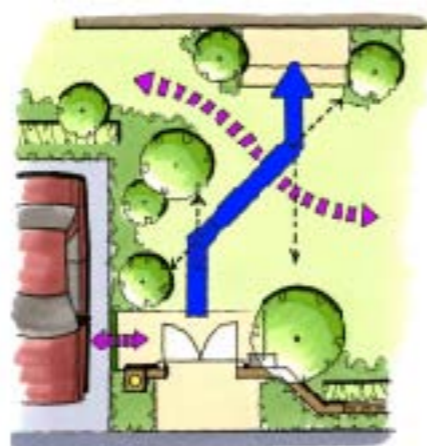


アプローチデザインテクニック

門まわりと玄関ステップを結ぶ通路のことをアプローチと呼びます。
 第1回の「ゾーニング」で解説した通り、先に駐車スペースと門まわりの位置を決めた後にアプローチの計画に入るのが一般的ですから、既に門の位置も決まっていますし、勿論玄関の位置も確定しているので、この間をいかに綺麗に繋ぐかがアプローチデザインのポイントとなります。
 又、門まわり同様アプローチもエクステリアを印象づける重要な部分となりますので、床の素材や組合せにも十分注意を払って計画することが重要です。

1 計画の基本は動線と視線のコントロール

ただ単に門まわりと玄関ステップの間を直線で繋いただけでは魅力的なアプローチとはならないでしょう。まずはお客様が門から玄関に向かってどの様に歩いて頂いたら気持ちよく感じて頂けるかを考えながらメインの動線をイメージします。次に駐車場やメインガーデン、サービスヤードへの補助的な動線を検討します。主な動線が決まれば次にアプローチを歩くときに前方に何が見えてくるのかをイメージし、必要に応じて植栽やアイストップ、フォーカルポイントなどを配置していきます。
 大切なのは機能性や安全性を意識しながら動線と視線を匠にコントロールすることなのです。



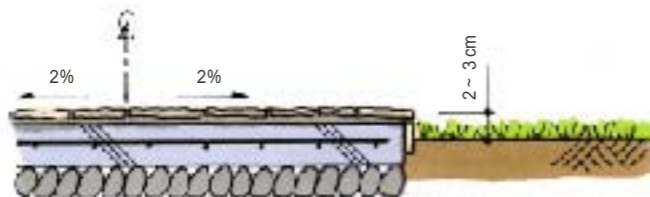
2 アプローチの基本寸法



人が一人で歩く通路巾としては60 cm程度あれば良いがメイン通路としては狭い。



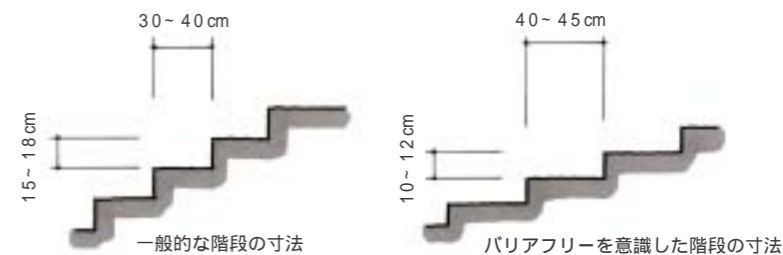
毎日頻繁に通る通路なので多少余裕を持たせて90 ~ 120 cmは確保したい。



床の仕上がり高さはGより2~3 cm高くし、表面に2%程度の横断勾配を確保する。

3 階段の基本寸法

敷地と道路に高低差がある場合はアプローチのどこかに階段を設ける事になります。その際、階段事故を起こさない様に階段の寸法やレイアウトには十分注意を払いましょう。一般的に踏み面は30 cm以上、蹴上げは20 cm以下が望ましく、蹴上げを低くした場合は踏み面を広くしてバランスをとります。



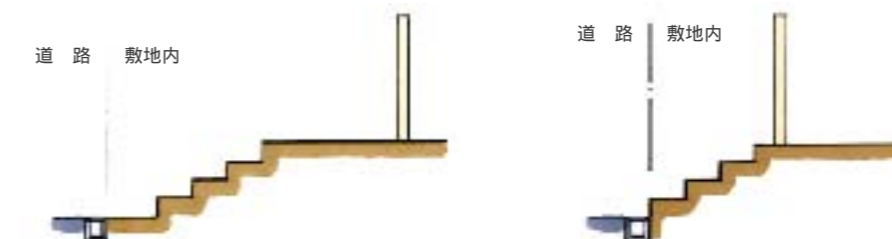
4 門まわりでの階段の処理パターン

階段はあまり敷地の奥には設けず出来るだけ道路側で処理する方が経済的でメインガーデンなどにも影響が出にくくなります。ここではその処理パターンと特徴を断面図を使って解説しましょう。



門を入ってから階段をとるパターンは道路に対して圧迫感を出さずにデザイン出来るが階段を上がりきるまで土留めが必要となる。

階段の途中で踊り場を設けて門を構えるパターンは高低差が大きく階段を一気に上がる事が大変な場合に最適。



階段を全て上がってから門を構えるパターンはボリューム感のあるデザインとなるが、門袖壁の高さと道路面の壁の高さを上手く調整する必要がある。

同じプランでもこの様に道路からすぐに階段が始まったり、門の前にスペースが確保出来ないものは危険なので極力避けるべき。

5 スロープの基本勾配

一般的に車椅子用のスロープの勾配は15:1以下にします。つまり上らなくてはならない高低差の15倍以上の水平距離が必要となるわけです。さらに、スロープの前後には必ず水平区間を設けなくてはなりません。

